

特集

海の宝石・ウミウシと対話して

「好き」を発見し、追求できる奈良女とは



Sacoglossa

- 06 Introduction to Historical Studies Course
- 08 Introduction to Architecture and Environmental Science Course
- 10 奈良女三姉妹&母インタビュー
- 12 Club/Circle # NWU
- 13 佐保会 各支部リレー便り・なでしこ基金
- 14 New! 学術情報センター
- 15 Campus Topics
- 16 あの頃の奈良女へタイムスリップ!!
= 本学自慢の名物教授 第7回 久米 健次編 =

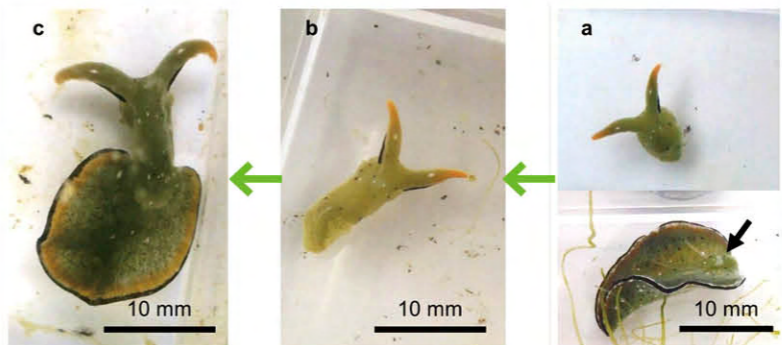


研究院
自然科学系生物学領域
教授
遊佐 陽一(ゆさ よういち)先生

人間文化総合科学研究科
博士後期課程
自然科学専攻2年
三藤 清香(みとう さやか)さん

海の宝石・ウミウシと対話して ～「好き」を発見し、追求できる奈良女とは～

今年三月に、本学の大学院人間文化総合科学研究科に在学している博士後期課程二年の三藤清香さんと遊佐陽一教授が、ウミウシの仲間「囊舌類」の二種において、大規模な自切再生現象を発見したことを発表し、国内外から大きな注目を集めました。今回は、そのお二人に「海の宝石」とも呼ばれるウミウシの魅力・研究への姿勢をお話しし、さらに奈良女での学びについてお話をさせていただきました。



コトノハミドリガイの再生の様子(図中の矢印は心臓を指す)
a. 自切直後、b. 自切から7日目、c. 自切から22日目

遊佐先生は普段どのような研究をされているのでしょうか？

遊佐：研究室は「水圏生態学」という名前がついていて、水中の動物に関する様々なことについて研究しています。ウミウシはもちろん、フジツボの雌雄同体について、また昨年稲の被害が多くてニエースにもなったスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の制御などについて研究しています。またホネクイハナムシという鯨の骨に群生している深海生物や、水中ではないですが、カラスについての研究もしています。

そのような水圏の研究をされている遊佐先生は、いつ頃から研究分野に興味を持ち始めたのでしょうか？

遊佐：子供の頃から興味は持っていました。昆虫だったり、化石だったり…。実際に海や淡水の生き物の研究をはじめたのは、大学院からです。

三藤さんが奈良女子大学に入学した経緯について教えてください。

三藤：決め手はいくつかありました。まずは生態学の勉強ができる大学であるということです。生物系で大学を探すと、生命科学や遺伝子工学というような、生物を利用した技術開発をするというような学問が多く、生物そのものについて学べる大学があまり見つかりませんでした。その中で、奈良女子大学では生物そのものについて広く学べるということを知りました。また親戚が奈良女に通っていて、奈良女のことを知っていたことも影響があったと思います。

学部生の時には様々な分野の学問に触れる機会があると思うのですが、その中でもウミウシの研究をしようを決めたのはいつ頃なのでしょうか？

三藤：入学時にウミウシのことを意識していたわけではありませんが、もともとから生態学をしようとは思っており、研究室の所属もその方向で考えていました。いくつか生態学系の研究室がある中で、水系の動物で、かつ生きている個体同士の関わりを、大きい視点で研究できる遊佐研究室に魅力を感じていました。他の研究室は、虫と植物の関係を統計学を用いて研究していたり、川の底に住んでいる生き物に関して遺伝子レベルから研究していたりなど、同じコースの研究室と言っても多様な研究内容があります。その中で私の興味が、「生き物同士の動きや関わり、動物そのものを見たい」というものであったので、遊佐研究室に決めました。

三藤さんがウミウシに興味を持ったきっかけは何だったのでしょうか？

三藤：ウミウシの研究をしようとして正式に決めたのは、遊佐研究室に入ってから、先生が研究されている動物の中でウミウシを研究対象に選んだときです。しかし三年生の時、卒研配属のための授業等で、光合成をするウミウシがいることを聞いていて、その時点で漠然と興味を持っていました。

今回の研究は囊舌類のウミウシについての発見ですが、ウミウシの継代飼育は難しいとお聞きしました。飼育はどのように行なっているのでしょうか？

三藤：そもそもなぜ囊舌類に属するウミウシの飼育が難しいのかというと、ウミウシの幼生が非常に小さい点にあります。ウミウシの幼生は「ベリジャー幼生」という、殻を背負ったプランクトンとして生きています。その殻が外れる時が変態の時期なのですが、その時期でも大きさは0.2mmほどです。それほど小さい生物を皿の中で飼育すると、餌などの影響で汚れ(バクテリアや付着藻類など)が発生し、その汚れにウミウシが捕まってしまうことがあります。またウミウシの種類によって、好みの餌が異なります。研究室で使用している餌とコトノハミドリガイの幼生がたまたま相性がよく、その点でも飼育が上手くいっているのだと思います。

そのウミウシの飼育は研究室のメンバーと交代でされているのですか？

三藤：ウミウシの研究をしているのは3名いるのですが、基本的にはそれぞれ自分でウミウシの幼生を育てています。幼生が変態するのは、その時の状況によって変わるのですが、だいたい三週間ほどかかります。その時まで丁寧に見届けます。

コノハミドリガイの研究についてなのですが、再生するのは心臓を含まない頭部の方であることを不思議に感じました。もし私がウミウシなら、心臓を含む体の方から再生させると思うのですが、なぜ頭部の方が再生されるのでしょうか？

三藤：詳しいことはよくわかっていないのですが、結局のところ、ウミウシにとって心

三藤さんが遊佐先生と共同で発表した内容は主に二つです。二つ目は研究室内で継代飼育されていた囊舌類のウミウシの種コノハミドリガイとクロミドリガイが首元で自切(※)したことです。自切した個体のうち、比較的若い個体の頭部の方が約3週間後に心臓を含む体部を再生した一方で、心臓を含む体部の方は光などに反応していたものの、再生は見られなかったとのことです。また、コノハミドリガイの自切を人為的に促すことも成功しています(首元の溝を細い糸で軽く絞り、自切を誘導)。

そして二つ目は、寄生者(カイアシ類の一種)をもっているクロミドリガイの自切についてです。このカイアシ類の一種はクロミドリガイに特異的に寄生するもので、産卵を抑制します。自切したクロミドリガイはこの寄生者を完全に排出し、心臓の再生をしましたが、寄生されていない個体については自切が起りませんでした。

※自切

主に両生類やトカゲ、節足動物などに見られる現象で、尾や脚を自発的に切り落とすことで、天敵による捕食を回避するために行われる例が多い。



クロミドリガイ

臓よりも大切なものがあるということだと思います。人間は頭と心臓どちらもなければ死んでしまいますが、ウミウシの場合、心臓がなくても生きていけるようです。

実際に頭だけの状態で生きていたり、心臓が一部壊れても平気そうな様子も観察できます。囊舌類は光合成をするのですが、餌も食べ続けなければいけないという点で、藻類に穴を開けるための歯舌(しぜつ)も大事であると考えています。頭の中にも細く枝分かれた消化管の一部が張り巡らされており、切られた直後であれば、まだ葉緑体は残っており光合成ができるのですが、その歯舌があることでさらに葉緑体を摂取し光合成を続けることができるため、その点でも頭部の方が大事なのかもしれません。

遊佐：心臓は血液を送るための器官で、酸素や栄養を送るなどの働きがありますが、自切して頭だけになると、元のサイズの十数%ほどになるので、頑張つて血液を循環させなくても生きられるのではないかと思います。これは考えられます。しかしこれはまだ仮説なので、これから三藤さんが実験をして確かめていくことになりそうです。

三藤：囊舌類のウミウシは光合成と消化から得られるエネルギーの両方を使わなければ生きていけないということもわかっているのですが、頭部だけですと生きていくのは難しいのかもしれないですが、大事な臓器が再生するまでは、光合成のエネルギーで生きていけるのではないかと思います。



ずっと取り組まなければいけない時もあり、苦手ではなくても、きついと感じることはあります。

遊佐：三藤さんは、忍耐力がすごいなと思います。研究上必要なことならば、嫌は嫌なりにそこを我慢して、ずっと取り組んでいますね。

三藤：クロミドリガイの寄生者の実験も、ヘアが60組ほどあり、それから寄生者の卵塊が出てきていないか観察し、出ていたら卵塊を取り除く作業など、本当にずっと見続けなければならない、観察勝負のような部分があるので、その点でも、集中力が必要で、体も頭も疲れるという大変さがあります。その苦しさを乗り越えるためには意地しかないのですが、ある程度実験を繰り返していくと、こういう傾向があるのかな、ある面白いことが起こったなど、そのような発見ができるこ

とが実験を続ける原動力になっていきます。何も変化がないこともあります。

遊佐：自切もまさにそうですが、予想とは違ったことが起きるとも面白いと思います。逆に、予想と違って何も変化がなかったり、思った結果が出なかったりする場合も「発見」ではあるので、発表する価値は大いにあります。まあ、少しつまらないと感じてしまつこともありますがね。

「大学院で研究する意義」はどのようなものだと感じますか？

遊佐：学部卒業後というものは、もちろん自主的にはできませんが、一年で終われるような内容を選ばなければいけません。大学院の研究は、ある程度教員がサポートはするものの、本当に自分で考え、試みて、研究結果をまとめるという一連のことを、自分のペースで取り組める良さがあります。本当に研究できたと思えるのは大学院での研究ではないでしょうか。現在、教員としても感じるの、自分で手を動かして実験をし、論文を書くという、研究の最初から最後までできるのは、大学院生ならではだと思います。その経験は何ものにも換えられないものですし、研究者になるならに聞わらず、経験してみてもいいものだと思います。

三藤：生物科学コースの場合は、卒研配属が四年生からで、単純に二つの研究にしても二年では(研究する時間が)足りず、ほんの一部しかできないと思います。私が四年生の二年間でできたことは幼生飼育だけで、自切が起こったという発見は、大学院博士前期課程(修士課程)に入ってからでしたし、寄生者との関係も同様です。発展的なことを自分で研究しようとすると、やはり一年では足りな

取り組んでから興味を持った分野を選択することもできます。

遊佐：これは理学部の生物科学コースの例なのですが、卒研配属に関しては、学生の中に「卒研配属係」という係があり、基本的には、学生自身が研究室配属を決定します。各研究室に最大3人が配属されるため、学生同士で情報交換しながら、最終希望を取るといふ形です。どうしても決まらない場合は成績で判断しなければならぬ場合もあります。

研究について、苦しいと感じることはありますか？また、その苦しい時に研究を続けられる原動力はどこから出てくるのでしょうか？

遊佐：実を言うと、大学の教員は教育や管理運営業務もあり、十分な研究時間が取れないので、今は研究できていれば基本的に楽しいと思います。例えば、研究で突破できない何かがあるのならば、他の手を考えて突破することが楽しいです。複数の手法を持つておいて、状況によって使う手法・方法を変え、試行錯誤すること自体が「研究」と言えますし、そこも研究の楽しさだと思っています。今はできないことが多いので、したいことがたくさんあります。若いときはまだ違うと思いますが、現状は研究に苦しさを感じることはないです。

私にとつてはレポート一つでも、苦しみながら書いているので、とても勉強になります。研究の苦しみとレポートの苦しみは違うものがありますか？

遊佐：私たちにとっては、レポートが論文に相当します。三藤さんは論文執筆をやや苦手としているみたいですが…

三藤：難しいですね。調べたいこともたくさんありましたが、私もともと研究職希望で、博士後期課程に進学しようと思っていたので…

博士後期課程を選ばれたのはいつ頃だったのですか？

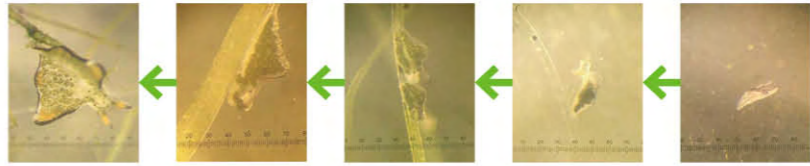
三藤：博士後期課程に進むのを決めたのは、博士前期課程で研究の成果がある程度出てからです。将来に大きく関わることなので、最初からはっきりとは決められず、周りにも言いづらかったというのがあります。

遊佐：実は、博士後期課程の学生さんを支援するため生活費や研究費を援助する制度が国の支援を得て今年から本学でも始まっているので、経済的な問題で博士後期課程への進学を迷っているのがあるなら、周囲の人に相談してみればいいと思います。国や社会全体でも博士人材を養成し、採用する理解は深まってきたのかなと感じています。

やはり学生にとっては、金銭面の不安は大きく、その点でためらう人は多いのかもしれないと感じるので、そのような制度があると嬉しいですし、多くの学生に知ってもらいたいと思います。

最後に奈良女子大学を目指している学生の皆様、大学院で学ぼうと考えている人へ一言お願いします。

遊佐：奈良女は、教員と学生の距離が近くてサポートが受けやすいと思います。そし



ペリジャー幼生の変態後の成長の様子

クロミドリガイの自切には寄生者の影響があると思うのですが、コノハミドリガイの自切はいきなり起こったものなのでしょうか？何か原因があるのでしょうか？

三藤：クロミドリガイの寄生者はカイアシ類です。実験で使ったクロミドリガイは、寄生されている個体とされていない個体を野外で集め、寄生個体のいくつかが自切して再生しました。

コノハミドリガイについては、野外から採取してきた個体を何世代か継代飼育していたので、寄生はされていませんでした。そのコノハミドリガイが自切した原因はまだよくわかっていないのですが、年をとった個体がよく切れてしまつたので、たとえば藻類に含まれている毒が体内に溜め込まれていくうちに、限界を超えると自切が起こる可能性があるのではないかと考えています。また、ハネモという細長い藻類を食べているので、その藻類が絡まって自切が起こっている可能性もあります。

遊佐：この辺りは仮説で、まだよくわかってはいません。

三藤：少なくとも、研究室のコノハミドリガイの自切の原因は寄生者ではないと思われます。ただし野生のコノハミドリガイを宿

主とするカイアシ類の寄生者がいることも報告されているので、コノハミドリガイの自切の能力もやはり寄生者の排除のために備わつていた可能性はあると思います。

ここまでウミウシの研究についてお話しいただいたのですが、三藤さんにとつての「ウミウシの推しポイント」はどこですか？

三藤：まず二つ目は可愛いところです。頭に目や口があるところ、耳もウサギみたいで、体がひらひらしているところなど、見た目からしても可愛いですし、見ていて癒されます。愛着の湧く生き物であるからこそ、研究を続けられるという面もあります。手間のかかる幼生飼育も、これを楽しめれば、可愛いウミウシが大きくなると思うと頑張れます。

そして光合成することこそ重要なポイントです。後生動物のうち、餌の藻類から「盗んだ」葉緑体で光合成をする(=盗葉緑体)する動物は、何十種かの囊舌類と二種のヒラムシだけです。盗葉緑体をしているがゆえに自切や再生が起きている可能性があったり、走光性(光のある方向に向かう性質)を持つていたりなど、他の生物ではあまりない生態が見られる点でも非常に魅力的です。

研究室に学生が配属されるまでの流れはどのような感じなのですか？

三藤：実際配属されるのは三年生の三月ごろで、研究を始めるのは四年生の四月ごろになります。配属の前に三年生から研究室を紹介するオムニバス形式の授業や、展開実習という、各研究室が行なっている研究に近いようなものをそれぞれ選んで実習をするというようなプログラムもあります。それらに

取り組んでから興味を持った分野を選択することもできます。

遊佐：これは理学部の生物科学コースの例なのですが、卒研配属に関しては、学生の中に「卒研配属係」という係があり、基本的には、学生自身が研究室配属を決定します。各研究室に最大3人が配属されるため、学生同士で情報交換しながら、最終希望を取るといふ形です。どうしても決まらない場合は成績で判断しなければならぬ場合もあります。

研究について、苦しいと感じることはありますか？また、その苦しい時に研究を続けられる原動力はどこから出てくるのでしょうか？

遊佐：実を言うと、大学の教員は教育や管理運営業務もあり、十分な研究時間が取れないので、今は研究できていれば基本的に楽しいと思います。例えば、研究で突破できない何かがあるのならば、他の手を考えて突破することが楽しいです。複数の手法を持つておいて、状況によって使う手法・方法を変え、試行錯誤すること自体が「研究」と言えますし、そこも研究の楽しさだと思っています。今はできないことが多いので、したいことがたくさんあります。若いときはまだ違うと思いますが、現状は研究に苦しさを感じることはないです。

私にとつてはレポート一つでも、苦しみながら書いているので、とても勉強になります。研究の苦しみとレポートの苦しみは違うものがありますか？

遊佐：私たちにとっては、レポートが論文に相当します。三藤さんは論文執筆をやや苦手としているみたいですが…

三藤：難しいですね。調べたいこともたくさんありましたが、私もともと研究職希望で、博士後期課程に進学しようと思っていたので…

博士後期課程を選ばれたのはいつ頃だったのですか？

三藤：博士後期課程に進むのを決めたのは、博士前期課程で研究の成果がある程度出てからです。将来に大きく関わることなので、最初からはっきりとは決められず、周りにも言いづらかったというのがあります。

遊佐：実は、博士後期課程の学生さんを支援するため生活費や研究費を援助する制度が国の支援を得て今年から本学でも始まっているので、経済的な問題で博士後期課程への進学を迷っているのがあるなら、周囲の人に相談してみればいいと思います。国や社会全体でも博士人材を養成し、採用する理解は深まってきたのかなと感じています。

やはり学生にとっては、金銭面の不安は大きく、その点でためらう人は多いのかもしれないと感じるので、そのような制度があると嬉しいですし、多くの学生に知ってもらいたいと思います。

最後に奈良女子大学を目指している学生の皆様、大学院で学ぼうと考えている人へ一言お願いします。

遊佐：奈良女は、教員と学生の距離が近くてサポートが受けやすいと思います。そし



飼育中のウミウシ

三藤：もう全然(研究の苦しみと論文の苦しみは)違います。

遊佐：でも私は自身は全然苦しくありません。やはり見つけたことは発表しないとイケないと思つていますが、その発見は世界中で自分しか知らないことであるので、それを発表することはとてもよいモチベーションになります。大変ではありますが、研究成果を知ってもらいたいという気持ちで、その大変さはクリアされていると思います。

三藤：論文が嫌じゃない研究者は少数派だと思いますよ！

遊佐：学生だと書き慣れていない部分もあるかもしれないですね。

三藤：私は学生なのでバリバリ手を動かして研究する立場ですが、私の研究は作業量が多く、二番忙しい時では、一日五〜六時間水換えや観察をします。昨日も五〜六時間ずっと写真を撮つていたりしていました。本当に

て、自分の研究テーマを持ち、自分で計画し、自分で研究を進められるという点は良いと思います。また、他のコースや他学部他学科に話を聞きに行くこともできますし、分野横断的な視点を持つて研究をできる環境があるということが奈良女の強みであると思います。

三藤：私が思う奈良女の良ところは、ここんまりして、静かな環境の中で研究できる点です。あまり騒がしくない環境で研究できる点でも、私に合っていると思うので、そのようなタイプの方には奈良女が適しているのではないかなと思います。同じ実験をするにしても、環境によつて全然違うと思います。ストレスなく研究できる場所は珍しいのではないかとと思うので、勉強や研究に集中したい方にはぜひ来ていただきたいと思つています。

学生記者の声



取材を通して、お二方は生物とじっくり「対話」して研究されている印象を受けました。取材後ウミウシを鑑賞できる水族館を検索した私はすっかりウミウシの虜です。世情が落ち着いたら水族館へ行こうと思っています。

末吉 美帆(すえよし みほ)
文学部言語文化学科3年生
出身校: 鹿児島県立鶴丸高等学校

歴史学へ
ようこそ!

Introduction to Historical Studies Course

文学部 人文社会学科 歴史学コース
大学院 人間文化総合科学研究科 人文社会学専攻 歴史学コース



文学部
人文社会学科
歴史学コース
教授
西谷地 晴美
にしやち せいび

Q 歴史学コースのカリキュラムについて教えてください。
歴史学コースを目指す学生は、「二回生のときに概論を履修する」と思います。二回生で学科分属をしますが、実際には二回生からコースの授業、歴史学コースの場合は講読の授業が始まります。日本史講読や東洋史講読、西洋史講読など、講読というネーミングはされてますが、これは二回生以上の、いわゆるゼミですね。私の日本史講読では、先行研究を読んでまとめて報告をするというようなことをしています。三回生になると演習、四回生になると卒業論文演習を履修することが出来ます。また講義科目の特殊研究では、非常勤の先生も含めて、先生の今現在、行っている研究を直接、授業で聞くことが出来ます。

Q 歴史学コースの特色 魅力は何だと思われませんか。
何でもやれることです。分野も時代も内容も、すべて学生が決めて卒業論文を書くのが原則です。だから逆に、「コースに入ってから「自分がやりたいことは何か?」と悩んでいる学生もいます。また現在では予定通りにできませんが、コロナ以前は、歴史学実習という遠隔地での現地実習が毎年あり、三回生を中心とした参加者が行き先などをすべて決めるといって実施されてきました。熊野を中心とした紀伊半島の調査を歴史学実習の授業の一環で実施し、何回も現地見学に行くということも三、四年しており、従来はそれも魅力の一つでした。また、学生と教員の距離が近いというのも、奈良女全体に言える良いところでしょう。



Q 歴史学コースでの具体的な研究活動について教えてください。
「コース」はあくまで先生が学生に教育をする枠組みを指すので、コースとして研究することはありません。ただ、特殊研究のテーマを見ていくと、歴史学コースの形が見えてくると思います。先生の専門分野はさまざまですが、国文学や平安時代の研究とリンクしながら平安時代の文化史をしている先生や、近代の小説などを素材に使いながら近代思想を解いていくという面白い手法を使う先生もいますし、私は過去を分析するときに、文字資料だけでなく、自然科学系のデータも使います。また、アラビア語が読め、イスラム文化圏の研究をしている貴重な先生や、食文化史を専門分野の一つとして本も出されている、イタリア中世史の先生もいます。ただ、学生は必ずしも先生方のそういう専門分野で卒論を書くわけではありません。学生の興味関心は別のところにある場合も多いので、あり



とあらゆるテーマの卒業論文が出てきます。
Q 先生の研究について教えてください。
昨年文学部の「まほろば叢書」として『気候危機と人文学』という本を出しました。今やっている研究は気候の歴史

史のようなことです。皆さんが高校で習う歴史では、過去の気候条件は一定というの前提です。それは必ずしも間違いではありませんが、私が専門にしていた平安時代の後期や鎌倉時代のような温暖な気候が続いている時期もあれば、江戸時代の後半のように非常に寒くなっている時期もあります。そういうときに人々がどのような生活

を送っているのかということが、実はこの分野に入り込んだときのテーマでした。今の私の研究は、温暖化が進み、地球の気候が以前とは全く違う様相を取っていくという、人類が経験したことのない新しい時代に入り込んだときに、学問はいつたい何をしたら良いのだろうかということ。人文科学系の我々の研究は、温暖化もコロナも関係ないと言ってしまう部分もありますが、学問の目的を問うとき、やはり人間や文化、社会の維持といった視点からも人類の課題に対してきちんと考えを示すべきではないかと考えています。少し言い方が難しいですが、

Q 卒業・修了後の進路について教えてください。
卒業・修了後の進路はいろいろですね。まず奈良女全体に言えることだと思いますが、公務員志望がかなりあります。合格率も高い。大学院進学も結構多く、特に歴史の場合は多いですね。自分で将来を考えて、一般企業の採用を決めてくる学生も当然たくさんいます。

Q 歴史学コースを目指す学生にメッセージをお願いします。
歴史学コースはやりたいことがやれるので、次の二つをしてほしいです。まずは早めに自分のやりたいことを見つけること。もう一つは本をたくさん読むことです。SNSは必要な情報以外入ってきますが、必要ないようにはみえる情報をどれだけ持っているかが、歴史のような総合学問をするときには非常に重要になってきます。歴史学コースを目指す人はほしいことを決めている人も多いで

すが、いろいろな分野の本を読み、広く興味関心を持つてもらえればなと思います。
Q 2022年度入学者よりコース再編が行われますが、それによって変わる点について教えてください。
人文社会学科と人文社会学専攻は、それぞれコース再編されますが、新しい歴史学コースは従来の古代文化学コースと歴史学コースが統合された形になります。これまでの学びの機会を維持しつつ、興味のある分野を主体的に学ぶことができるので、安心して進学を考えてみてください。

学生記者の声



歴史はただの過去ではないのだと強く感じられるお話でした。歴史学コースの魅力が伝わり、私自身のコース選択の参考にもなりました。これからの学びにおいて、その目的を意識しながら取り組んでいきたいです。

藤川 諒子(ふじかわ りょうこ)
文学部人文社会学科2回生
出身校:徳島県立富岡東高等学校

Introduction to Architecture and Environmental Science Course

生活環境学部 住環境学科
大学院 人間文化総合科学研究科 住環境学専攻

住環境学へ
ようこそ!



生活環境学部
住環境学科
教授

中山 徹
なかやま とおる

Q 住環境学科専攻のカリキュラムについて教えてください
基本的には一級建築士の資格取得を念頭に置いてカリキュラムを組んでおり、そのようなカリキュラムに則って学部の授業や大学院の授業を行っています。したがって、学部を卒業すると、一級建築士、二級建築士の受験資格を得ることができます。二級建築士は、合格すれば登録でき、一級建築士は実務経験2年を経れば、登録できます。住環境学は、建物の設計やデザインについて考える計画系と、構造計算や空調、照明について考える実験系に二分できます。上級生になると、計画系の研究室に所属している学生には計画系のカリキュラムを、実験系の研究室に所属している学生には実験系のカリキュラムを選択していただきます。

Q 住環境学科・専攻の特徴は何だと思われるますか
多くの大学や大学院では、理系の工学部建築学科や工学研究科建築学専攻において建築を学びます。奈良女子大学では、文理融合型である生活環境学部の住環境学科及び大学院の住環境学専攻において建築を学ぶことができるため、文系の学生も理系の学生も建築を学ぶことができます。建築学への関心が広いことが、大きな特徴の一つとして挙げられます。

また、学部では、一般的な工学部建築学科と同様に建物について考えながら、一方で、生活環境学部の学部共通科目として、建築の背景にある、その住宅の中で家族がどう暮らすのか、どのような食生活、衣生活が人々にとって望ましいのか、といった人々の生活について



いても考えることができます。食物系の概論や衣環境系の概論といった授業がその例です。したがって、住環境学科には、生活に関連する素養を身につけた上で、建物について勉強できるという特徴もあります。
加えて、奈良女子大学は「フィールドに出る」ということを重視しています。研究室や図書館、教室での学びももちろん大切ですが、できるだけ地域に出て、実際の暮らしに触れながら学びを深めています。生活環境学をキーワードとした学びを得ることができるのも、奈良女子大学ならではの特徴です。実際に、私が担当している学部の授業では、近くの商店街へ行き、商店街の人々と一緒に商店街活性化を目的としたイベントを考えることで、まちづくりを学ぶことができます。大学院で私が担当している授業では、台湾と日本の学生が国を行き来し、

台湾の地域調査を台湾の学生と共同で行っています。大学院では、国内にとどまらず海外の地域に足を運んで地域の人々の暮らしや仕事を学んでいます。

画の研究室に属しており、都市や農村、まち、地域の計画を行っています。奈良県吉野郡東吉野村や野迫川村、奈良市のまちづくりや地域の活性化について研究しており、大学の近くの餅飯殿(もちいどの)では商店街の方と協力し、商店街活性化事業に取り組んでいます。また、奈良県のみにとどまらず、海外の大学と共同で海外のまちづくりの研究にも取り組んでいます。

Q 先生の具体的な研究例についていくつかお聞かせください
私は計画系の中でも都市計画や農村計

Q そのような研究に興味を持たれた理由は何でしょうか
最初は建物の設計に関心があり工学部建築学科に進学しましたが、建築学科でさまざまなことを学んでいるうちに、当時興味を持っていた経済学にも深く関係するまちづくりの分野に興味を持ち、やや社会科学的なイメージのあるまちの設計について考えるようになりました。

Q 住環境学科・専攻への進学を目指す学生へメッセージをお願いします
建築は幅の広い学問です。例えば、計画系の中でも、私のようにまちづくりに取り組んでいる者は、数学や歴史の分野よりも経済や政治の分野とのつながりを強く感じる人が多いです。個々の建物の設計について一日中考えておられる先生もいれば、中世や近世の頃の建物について研究しておられる先生もいます。また、「設計」と一口に言っても、造園の設計を行う人は鉄やコンクリートだけでなく生きた草木などを扱うことにもなります。

さらに、実験系では微分方程式などを用いて構造計算をされている先生もいます。このように、建築や住環境の学問はいろんな分野にまたがっているため、さまざまなことに興味、関心を持っている方が進学できると考えています。卒業後は、ハウスメーカーやゼネコンなどの建設業に進む学生もいれば、設計事務所や設計を行う学生もいます。他にも、公務員など、いろいろな分野への就職が可能です。住環境学科・専攻は、スペシャリストを目指す学生にも、シネラリストを目指す学生にも向いている、関口の広い専攻である



学生記者の声



中山先生のお話をお伺いする中で、いろいろな分野を「かけ算」してみることで新たな可能性を創造する奈良女子大学に改めて魅了されました。同時に、私自身も身の周りに「かけ算」できるものがないか探してみようと思いました。初めての取材はとてもワクワクする体験だったので、奈良女子大学への進学をお考えのみなさんにも、入学後にぜひ体験してみたいな、と思います。

鈴木 美優(すずき みゆ)
理学部数物科学科1回生
出身校:帝塚山高等学校(奈良県)

と言えるでしょう。
特に奈良女子大学の住環境学科・専攻には、「工学的な素養だけでなく、生活に関連する素養をも身につけた上で、建物について勉強できる」という特徴がありますので、人々の生活について考えながら建物について考えたいという方は、選択肢の一つとして進学を考えてみてください。

学生記者の声.....

家族の思いを知ることができ、改めて奈良女子大学の良さが理解できた取材でした。3姉妹が入るほど素敵な奈良女子大学!この記事で奈良女子大学に興味を持ってくださる方が一人でも増えたら嬉しいです。

勝島 美侑(かつしま みゆ)
生活環境学部
生活文化学科3回生
出身校:天王寺高等学校

ころが良いと思う?」
彩葉:広く学べるころ!もちろん専門的な授業もあるけれど、「その知識を日常生活にどう応用するか」をメインに学べるんです。
理湖:あと、全学部向けの授業もあるから、興味のある他の学部学科の授業も受けられるのは魅力的です。
彩葉:立地の面から言うと、周りが自然豊かで自分のペースで勉強できるのが好き。やっぱり静かで勉強しやすいです。あと、駅から近くて治安も良いところなので、安心して勉強できると感じます。
美侑:そうそう!奈良女子大学は、駅から5分のところにあるんです。近辺には新しいおしゃれなお店も多くて、学校終わりに友達とつい寄り道しちゃいます。幸せな時間です!



学、すごいな〜と思いました。あとは二人が入っているなら私もここかなあと勝手に思っていました(笑)。
— 他の大学と比べ、どんなところが良いと思う?」

— 奈良女子大学に入学して、印象に残っていることは何ですか?」
彩葉:先生との距離が近いことかな。私は今、大学院生だけど、そこまで進もうと思えたのも先生との距離感が近かったからです。先生も学務課の人もみんな面倒見がよくて、すごく頼りになるし相談事にも乗ってくれます。生徒数が多くないから生徒一人ひとりのことを本当によく見てくれてるんだなあと感じます。
理湖:私は面白い授業が多いところかな!1年生の頃「パサージュ」というミニゼミの授業を取れるんですが、15人くらいのミニゼミみたいな感じでとても楽しかった!文学部の先生の吸血鬼の授業を受けて、大学の授業ってこんなに楽しいんだ!って思ったことが忘れられません。「大学では自分の好きな研究ができるんだ!」って感じました。
美侑:私も姉に勧められて同じ授業を取りました。「パサージュ」で、大学の最初に学部を問わず学ぶことができたことは、すごく印象に残っています。どれもすごく興味深い授業でした。
彩葉 理湖:あとやっぱり鹿が多い。予想以上の多さ!キャンパス内に鹿がこんなにいる学校、世界探しても奈良女子大学くらいじゃないかな!1年生の頃は近寄るのも怖かったけれど、今はもう慣れてしまいました(笑)。奈良公園にいる鹿よりも大人しい子が多いので怖くないよ!



奈良女三姉妹&母インタビュー



奈良女子大学に三姉妹で通っている勝島家三姉妹。
三姉妹全員で奈良女子大学に在学しているのは史上初!
奈良女子大学のことを知り尽くしている3人に、奈良女子大学の魅力を聞いてきました!



長女・勝島彩葉(24)
人間文化総合科学専攻
生活工学共同専攻2年



次女・勝島理湖(22)
生活環境学部 情報衣環境学科
生活情報通信科学コース4年



三女・勝島美侑(20)
生活環境学部
生活文化学科3年

今回の取材は、三女である勝島美侑が担当します。
— どうして奈良女子大学を選んだのですか?」
彩葉:いろんな理由があるけれど、オープンキャンパスのときの雰囲気や印象に残っています。先輩たちが楽しそうでキラキラして見えました。学問的な話で言うと、衣服と身体について興味のある二点を一緒に学べるっていいところにも惹かれました。
あ、あとカフエのバフェが凝ってる!すごく美味しかったことが記憶に残ってます。大学に入ってから何度も食べています!」
理湖:私はもともと女子校に通っていたから、そのまま女子大に行きたかったんです。もちろん姉が通っていたっていうこともあるし、高校の先輩にも奈良女子大学に行っていた人が多くて、その体験談も参考にしていました。大学では周りにも女子校育ちの子も多くて、そういう思考の人も多いのかなあと思います。
あと、女子大で情報の学科があるのすごく惹かれました。珍しいですね。私、小さい頃からプログラミングに興味があつて独学で勉強をしていたんです。ゲームが好きでそれに関わる勉強は楽しくて...!姉のオープンキャンパスを見に行つて、VRの研究を見てすごい!自分もやりたい!と思ったのが選んだ決め手になったのだと思います。
美侑:私は姉二人の評判を聞いています。通っている人の意見を参考にしよう。良い点と悪い点を聞いて、圧倒的に良い点が多かったんです。通っている人がこんなにも褒める大



三姉妹の母・勝島利恵さん
入学式に3回、オープンキャンパスでも何度も行きました。

— 奈良女子大学とはどんな出会いだったか教えてください。
まだ娘が幼稚園児だった頃、奈良公園に遊びに行つたときに初めて奈良女子大学の場所を知りました。大学の名前と、日本で2つしかない国立女子大だということは知っていました。が、実際に「ここなんだ!」というのを目にして、立地の良さ、国の重要文化財でもある歴史を感じる建物に「ん!ときたんです。まだ幼い子供たちに「大きくなったらここに入り!」とすごい勧めました。門前で「ここに3人全員入りますように」と願った記憶もあります(笑)。

— 覚えてますか?」
彩葉 理湖:めちゃくちゃ覚えてます。

— 縁があつて本当に3人全員入ることになりました。
「3人で通つたらいいのになあ」というのを覚えてくれていて、実現したことに運命を感じています(笑)。3人で通つているので、小学生のように誰かが忘れ物をしたら誰かが届けに行けるんです。みんな仲良しで嬉しいです。

— 保護者の方から見た奈良女子大学の良いところは?」
女子大に通っているということで親としては安心感があります。
また、大きい大学なので教授との距離も近いです。私自身もよくお話しさせていただき、すごく頼れる学校だと感じました。細やかなところにまで手が届く感じですよ。
あと、親目線から見ると食事面の良さは非常に大きいです。
驚くくらい安い値段で学食を提供されています。私も食べたことがあるのですが、味がとっても美味しく、それでいてバランスの良い、体に優しいメニューでした。夜ご飯を食べに来られる「ほっこり食堂」の取り組みにも感激しています(※1)。新型コロナウイルスで学校が閉まっていたときもお弁当を出してくれたり、そういう親切なところが好きです。さすが満足度日本(※2)の食堂だと思えます。他県の親御さんも安心して子どもを任せられる学校だと思います。

※1 2021年9月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生以外のご利用学内への入構をご遠慮いただいております。
※2 第56回全国大学生協連学生生活実態調査 2020年10・11月実施。
現在の生協に「満足」「まあ満足」と答えた方が93.7%あり、全国1位。

佐保会 各支部リレー便り 全国47都道府県で活動



大分県支部 得丸 定子
(1974年 家政学部食物学科 卒業、1996年生活環境学専攻 単位取得退学)
皆さま、コロナ禍の中、お元気でお過ごしでしょうか？

さて、「おんせん県おおいた」の地図位置はわかりますでしょうか？「失礼な!」と思って下さる方は大歓迎。私は退職を機に母の介護のため帰郷しましたが、県外在住時、「大分県はどこ?」と位置に曖昧な方が多いことを知りました。この「支部リレーだより」を機に、大分県の位置情報を明確にして頂ければ光栄です。

本支部は会員数106名。小規模ゆえに温かい繋がりを保っています。それは大分県人の気質を反映しているかもしれません。一説に「気質は8藩統合の背景から九州らしさが無い。合理的で、協調性に乏しく、地域間競争意識が強く、自主独立志向の高い人が多い。頑固と言う訳でもなく、人見知りや照れ屋の話しベタゆえ、誤解されやすいが、内心は情熱的で温かい人が多い」とか。

コロナ禍以前の本支部総会では、農泊(農村漁村滞在型旅行)などグリーンツーリズム活動をしている会員は手作りの食べ物(石垣餅、赤飯など)を毎回持参、高齢者施設に入所中の会員は折り紙などを。他の方々からも手土産があり、和やかで家庭的な会となっていました。また80歳になった会員には総会で花束贈呈を。2年前から小路田泰直副学長が総会にてご講演。「宇佐八幡宮の新説」等、思わず引き込まれる講演をして下さっています。

本支部の大先輩に、「栄光園」の設立・運営に尽力された小郷小福氏(文科、1919年卒、1985年没)がおられます。「栄光園」は戦後の混乱の中、当時「混血児」と呼ばれた子どもたちを迎える養護施設として1950年に米軍と地域の協力で設立され、小郷ご夫妻は初代・2代施設長として献身的な努力を重ねてこられました。佐保会員の先輩というご縁で、本支部は栄光園に長年、少額な寄付と手作りの品(近年は、子どもたちの学校持参用の雑巾)を贈って参りました。

その他の活動では、盲学校に点字書籍を寄付などの活動を。諸事情でこれらの活動は途切れていますが、復活を願っています。

コロナ禍が明けた折、「おんせん県おおいた」への皆さまのお越しを心待ちにしています。それまでお元気でお過ごし下さいますように。



令和1年度 佐保会大分県支部総会



栄光園歴代園長写真と現施設長(右から3番目の写真が小郷小福氏)

「なでしこ基金」へのご協力ありがとうございます

皆様方によるなでしこ基金へのご理解のもと、2021年4月1日から9月30日までの間に4,318,890円「古本(リサイクル)募金を含む」のご寄附を賜りました。心から、温かいご支援・ご協力に感謝申し上げます。

「なでしこ基金」では、新たな資金の獲得のため、「遺贈寄附」を実施し、3銀行(南都銀行、三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行)と協定を結びました。そして、今年度より「附属幼稚園・附属小学校支援事業」を立ち上げ、支援を行ってまいります。また、税額控除の対象となる新たな基金として、「奈良女子大学なでしこ基金研究等支援特定基金」の設立を準備しています。「なでしこ基金」へのご寄附に際しましては、本学ホームページより、クレジットカード決済もご利用いただけます。また、皆様からご提供いただきました書籍・DVD等の買取金額を本学がご寄附として受領する仕組みである「古本(リサイクル)募金」も引き続き受け付けております。

今後も、学生に質の高い修学環境を提供すべく努力してまいりますので、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくごお願いいたします。



なでしこ基金チラシ

古本(リサイクル)募金チラシ

Club/Circle # NWU



#非日常を体験 #他大学とも交流

♡お気に入り

オリエンテーリングクラブ メンバー数:41人

活動内容:オリエンテーリングとは、地図とコンパス(方位磁針)を使って山野や公園に設置されたチェックポイントを回り、そのタイムを競うスポーツです。週に1回、学内でトレーニングと地図読み、週末に開催されている練習会や大会に参加しています。

◎自然の中で運動することの面白さとは? 山の中はひんやりとしており、その中で尾根や沢、川など普段走ることのない場所を疾走する爽快感と非日常感が最高です。

◎始めたきっかけは何ですか? 新歓のオリエンテーリングの紹介で興味を持ち、競技に必要な道具は全てレンタル可能、大会や練習会は自分で選んで参加できるという始めやすさから入部を決めました。

◎特に楽しかったイベントは何ですか? 年に2回開催される日本全国の大学生が集まる大会のインカレです。オリエンテーリングは基本的には1人で山に帰還するのですが、インカレでは中継を見ながら全員で競技者を応援します。



#初心者大歓迎 #一射入魂

♡お気に入り

弓道部 メンバー数:25人

活動内容:講堂裏にある弓道場で毎週火曜日、水曜日、木曜日の三日間練習に励んでいます! 練習内容は主的に前での射の練習で、試合形式で弓を引いたりもします。

◎ずばり! 弓道の魅力は? 精神力や集中力が高まることです。目先の結果の良し悪しに左右されず、ただ目の前の一本の矢に集中すること。弓を引くという行為を通して、自分の良い面、悪い面共に見つめ直すことができます。あと、弓を持って袴を着て歩いていると目立つので、よく街で通りがかりの方に褒められます(笑)。

◎これだけは負けたい! という弓道部の自慢は何ですか? 居心地の良さだと思います! 部員一人ひとりが個性的でとても面白い! 仲が良い! 互いに切磋琢磨し合える素敵な環境です。

◎今後の目標は? 大会で上位入賞すること、9~10月にかけて行われるリーグ戦で昇格することです。奈良女子大学は現在、関西4部リーグに所属しています。良い結果を残せるよう、より一層集中して練習に取り組みたいと思います!



#ゆるく活動中 #実家通いの部員もいます

♡お気に入り

天文部 メンバー数:30人

活動内容:屋外での星の観測が主で、天気が悪い日は星や神話の勉強会を開催。(現在はほぼオンラインでの活動)

◎星を観察していて面白いと思う瞬間は? 星空を観察する中で自分が覚えた星座を見つけられたときに、楽しさを感じます。また、星空は季節ごとに全く違う表情を見られるので、それも良さの一つです。

◎天文部に入ってよかった! と思えた瞬間は何ですか? 合宿先で、天文部のみんなと満点の星空を観測できたときは感動しました。また、その時に先輩方が優しく望遠鏡の使い方を教えてくださったのも良い思い出です。

◎今後やってみたい活動は? 天文部は、毎年文化祭でプラネタリウムを行っているのですが、去年はコロナ禍で活動できませんでした。そこで、今後はオンラインでのプラネタリウムをやりたいと考えています。



#生協 #イベント #交流

♡お気に入り

WINDY メンバー数:70人 生協学生委員会(公認)

活動内容:「生協組合員がよりよい大学生活を送ること」を目的に生協でいろいろな行事を企画しています。目印はピンクパーカー!

◎ずばり! WINDYとは? 自分や組合員のよりよい生活を考え、積極的に生協に関わる学生の集まりで、自分たちの想いを大学生協に反映するために活動しています。人のことを考えて活動している、思いやりある仲間たちです。

◎WINDYに入ってよかったと思った瞬間は? 新学期活動を通して未来の奈良女生と触れ合えたとき、自分の意見が企画で形になったとき、仲間と一生懸命準備して参加者に満足してもらったとき、大学生活と密接な大学生協の活動を知った上で生協利用したとき。

◎これから活動していくにあたって大切にしていきたいことは? コロナ禍に対応した新しい形で組合員に向けて活動すること、常に変化する状況に対応できるようにアンテナを張り巡らせておくこと、組合員の生の声を聞き今必要なことは何かを考えて活動を行うこと。

Campus Topics

■ 久保 博子 (研究院工学系工学領域) 教授が「第46回井上春成賞」を受賞されました

6月1日、研究院工学系の久保博子教授ならびにパナソニック株式会社インダストリアルソリューションズ社 社長坂本真治氏が第46回井上春成賞を受賞することが決定しました(表彰技術名:温熱生理学に基づく温冷感推定技術の開発)。

井上春成賞は大学、研究機関等の独創的な研究成果をもとにして企業が開発、企業化した技術であって、わが国科学技術の進展に寄与し、経済の発展、福祉の向上に貢献したもののなかから特に優れたものについて研究者および企業を表彰するもので、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営しています。



写真提供:株式会社文教ニュース社

■ 令和4年4月 生活環境学部文化情報学科が開設されます

文化情報学科は、生活文化学コース(現・生活文化学科)と生活情報通信科学コース(現・情報衣環境学科生活情報通信科学コース)によって構成され、令和4(2022)年度から新たな学科としてスタートします。

近未来の社会においては、IT技術の生活への貢献が期待されるとともに、誰一人取り残さない持続可能な社会のあり方が求められています。Society5.0の実現とSDGsの達成は、文化情報学科の教育の二本柱となっています。

両コースは生活に関わる教育・研究を基盤としつつ、人文社会科学と情報通信科学を文理横断的に活用し、社会的課題解決に取り組むとともに、新たな価値を創造する次世代を担う女性人材を育成することを目指しています。



教育研究組織と目標

New! 学術情報センター



奈良女子大学学術情報センター(2014年に附属図書館と総合情報処理センターを統合)は2021年4月にリニューアルされました。学生がオープン利用できるPCなどICT環境が再整備され、所蔵資料を使いながら主体的な学習ができる場になっています。大学全体の蔵書約59万冊のうち約30万冊が所蔵されており、落ち着いた雰囲気が特徴です。各席にパーテーションを設置し、コロナ禍でも安心して学習できるスペースであるとともに、グループで話し合いながら学習する際にも居心地よく滞在できるのが一番の魅力です。



グローバルcommons

自習用のパソコン・プリンタと、組み替えて自由に使える机があるスペースです。一人、グループどちらでの学習もできるようになっています。壁面には奈良県産の杉の建材が使用されていて、暖かい雰囲気を感じられます。また「学習ブース」という声を出して使える一人用の個室も設置されています。



語学学習やオンライン授業、面接の際に使われ、予約が埋まる人気席です。

2階閲覧室

新しく書架が設置され、おおよそ10年以内に受け入れられた本の一部(約1万冊)が置かれています。隣には閲覧用のソファや自習席があり、資料へアクセスしやすくなっています。かねてから人気があった半個室席も増設されました。パソコンを持ち込んでの作業などができるようになっています。



おすすめスポット

書庫 照明と床を改修して明るい雰囲気に変わった書庫ですが、実は穴場の自習スポット! 自習用の机があり、涼しく過ごしやすい場所です。特に地下書庫がおすすめ。



2階閲覧室 2階閲覧室からは重要文化財である記念館を望むことができます。桜や紅葉の季節の景色は格別です。

学生記者の声

実際に施設を案内していただきながらお話を伺えたので関心が高まりました。リニューアルされた場所を使うのが楽しみでなりません。学術情報センターは奈良女の大きな魅力の一つなので、その良さが皆さんに伝わってほしいです。

林穂佳(はやし ほのか) 文学部言語文化学科3回 出身校:京都府立桃山高等学校



あの頃の奈良女へタイムスリップ!!

=本学自慢の名物教授 第7回 久米 健次 編=



◆ 研究は「宝探し」

久米先生のご専門は原子核物理学です。原子核物理の理論や、原子核の反応について長年研究されてきました。

先生が常に興味を持たれていることは、「予想外なこと」や「びっくりすること」で、物理学の勉強を始められたきっかけも、中学や高校の時に入門書で量子論や相対論のことを読んだときの「意味不明さ」への疑問だそうです。

物理学の研究の中でも、そのような疑問に向き合い、「予想外なこと」を追い求め続けられました。例えば、理論で説明できない実験結果はなぜそうなるのかとか、研究を始めた時のテーマであった「弱い相互作用」は、一見したところ私たちには何の関係もないようだけれど、実は太陽が爆発しないでゆっくり反応しているのは、一見、私たちには何の関係もない「弱い相互作用」という目に見えない力のおかげであるなど、目に見えるものの背後にある、見えない不思議なもの、隠されたルールを見つけることを先生はまるで「宝探し」のようだと表現されます。

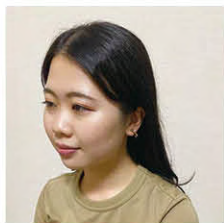
そんな久米先生ですが、50歳を過ぎてから本学の副学長、学長のお仕事を10年間務められ、60歳を超えてから今まで、再び研究者として第二の人生を歩まれています。その研究内容は、物理学とはジャンルの異なるデータ科学で、これは、世に溢れる様々なデータから意味のある情報を取り出す方法の研究で、先生は、データ解析を目的にこの研究を志したのではなく、解析の方法自体に「面白いな」とご興味を持たれ、ご自身のアイデアとパソコン一つで新しい「宝探し」に取り組み始めたそうです。先生は、最近驚かれたこととして、人工知能のお話をしてくださいました。5年前に人工知能が囲碁で世界的なトッププロに勝った出来事は当時の常識を覆すものであり、先生は「すごいことになったな」ととても驚かれたそうです。しかし、先生曰く、人工知能は決まったルールのあるものには強いが、漠然とした状況には弱いそうです。このような驚きと出会う中で、データ科学への関心が高まりました。そして現在、少ないデータから全体像を再現する「スパースモデリング」を応用し、少ないデータからでも「将来予測」の精度を上げることを目指し研究に取り組まれています。

◆ 毎年新発見

久米先生はご趣味の畑仕事に熱心に取り組まれています。予想外のことや知らないことがたくさんあるから植物は大好きだそうです。植物の種類によりますが、1つの果実の中の種を育てると、育った苗は兄弟のように皆顔つきが違ったり、年によっても様子が異なったり、毎年新たな発見があるそうです。「毎年作物を育てて遊んでいる」とおっしゃったように、畑仕事を心から楽しんでいらっしゃる様子が印象的でした。

また、先生は中学生時代、卓球は鳥取市で個人優勝されるほどの実力で、40歳を過ぎてからテニスも始められました。さらに、クラシックギターも嗜まれ、奈良女子大学でギター部の顧問もされました。先生の好奇心旺盛なお人柄や、チャレンジ精神、意外な一面が垣間見れる貴重なお話でした。

学生記者の声



久米先生は学長も経験された教授ということで、私は初めての取材だったこともありとても緊張していました。しかし、私の拙い取材にもとても気さくに様々なお話をしてください、先生の温かなお人柄や誰に対しても分け隔てない思いやりを感じました。日々「意外なこと」を探し、いつまでも新しいことに臆することなく自然体で挑戦され学び続ける先生のお姿から、人生の楽しさを教わりました。

また、私は奈良女ピアノサークルのpiano-forteに所属しており、百年ピアノにまつわるお話をたくさん伺えてとても嬉しかったです。いつか百年ピアノを弾けるのがより楽しみになりました。

高木 理華子(たかぎ りかこ)
文学部人間科学科2回生
出身校:愛知県立岡崎高校

昭和23年11月3日	岡山県倉敷市に生まれる
昭和42年3月	鳥取県立鳥取西高等学校 卒業
昭和46年3月	京都大学理学部 卒業
昭和48年3月	大阪大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程 修了
昭和51年3月	大阪大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程 修了
昭和51年4月	日本学術振興会奨励研究員(昭和51年5月まで)
昭和51年6月	奈良女子大学理学部助手
昭和59年4月	奈良女子大学理学部助教
平成4年6月	奈良女子大学理学部教授
平成12年4月	奈良女子大学副学長(平成15年3月まで)
平成15年4月	奈良女子大学学長(平成21年3月まで)
平成21年4月	奈良女子大学教授(学長特命担当)
平成24年3月	定年退職
平成24年4月	奈良女子大学教授(学長特命担当)(再雇用)
平成25年3月	再雇用任期満了退職
平成25年4月	奈良女子大学名誉教授

◆ 「柄ではないけれど貴重な経験」

たくさんある学長時代の思い出の中から、特に印象的だったことを教えてくださいました。まずは、就任1年後の国立大学法人化に伴う様々な動き、当時の大変な日々について教えてくださいました。新たな研究拠点の募集などに懸命に応募し、時には学長ながら徹夜で企画書を書かれることもあったそうです。

また、ラウンジ(天井の桜のデザインは久米先生案だそうです。ぜひ見上げてみてください)や、国際交流プラザ、コラボレーションセンターなどの設営やこの広報誌Todayの創刊にもご尽力いただきました。

さらに、記念館で様々な演奏会も開催されたそうです。奈良女子大学創立100周年記念の際には「式典だけでは面白くない」と世界的なヴァイオリニストの五嶋みどりさんを(全くの偶然ですが)お呼びし、100年ピアノと共に演奏会を開かれるなど、卒にとられないお仕事をされました。

久米先生にとって学長のご経験はとても多忙で大変なこともありながら「柄ではないけれど貴重な経験」だったと思い返されていました。

◆ 「好きこそもの上手なれ」

最後に、久米先生から私たち大学生、そしてこれから大学生になる皆さんにメッセージをいただきました。

「好きこそもの上手なれ」とあるように、例えば高校球児が大変な練習を頑張るのは、「好き」の気持ちがあるから。学問もそう。どうせやるなら好きなことをやった方がいいと先生はおっしゃいました。何にでも関心を持ち、ほんの少しでも人と違う工夫をして、試行錯誤してみる。失敗や成功を経て、必ず自分にとって得ること、役立つことがあると。

久米先生自身、今でも試行錯誤の日々だそうです。「予想外なこと」という宝物を探して、今日も色んなことに関心を持ち新しい何かを考えていらっしゃいます。



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 小路田泰直, 石井邦和, 吉田孝夫, 佐伯和彦, 黒川嘉子

編集責任者/室長 小路田泰直 連絡先/奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

"ならじよToday"へのご意見・ご感想を是非お聞かせ下さい。より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。(編集部)

▶ バックナンバーはHPをご覧ください。▶ <http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>